

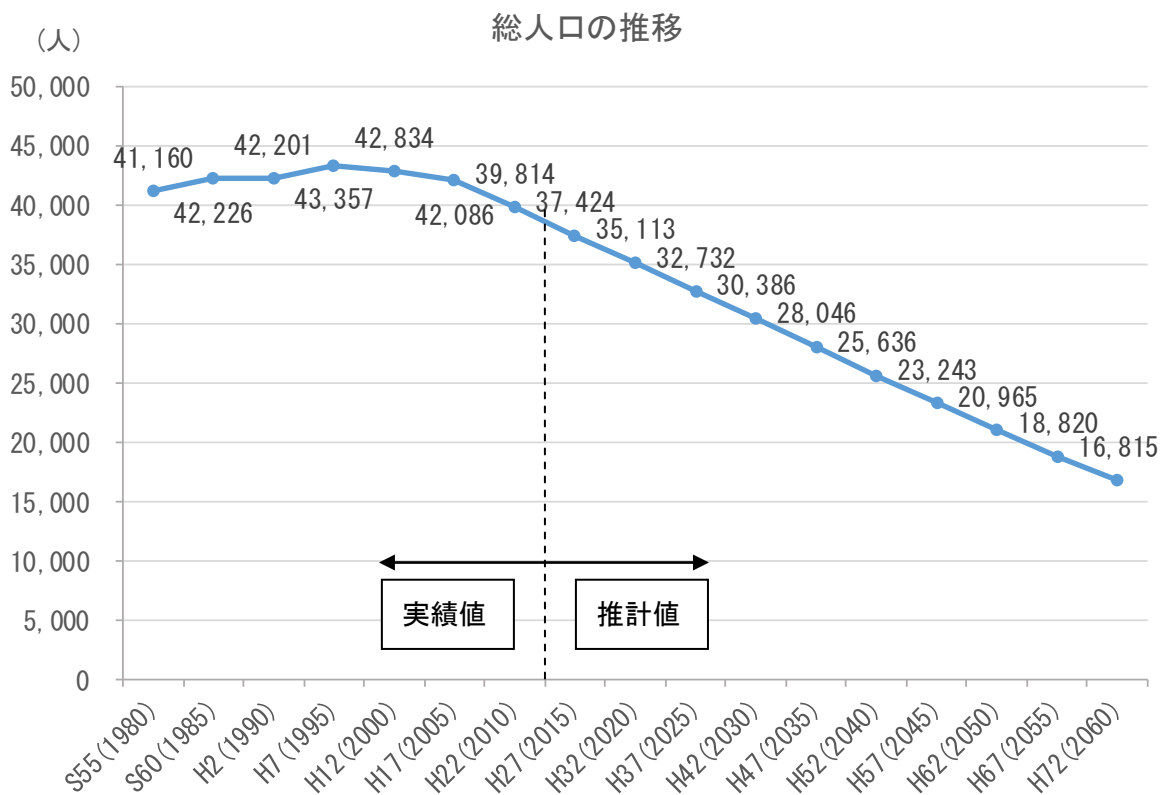
## ■人口の現状について

資料 3

### 1 総人口の推移

匠瑳市(以下「本市」という)の総人口は、平成 7 年(1995 年)国勢調査では 43,357 人とピークになり、その後、平成 22 年(2010 年)国勢調査では 39,814 人となっている。また、平成 27 年 7 月 1 日現在の総人口(常住人口)は 37,680 人である。

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という)が平成 25 年 3 月に公表した推計に基づく計算によると、本市の総人口は平成 72 年(2060 年)には 16,815 人まで減少すると予測されている。

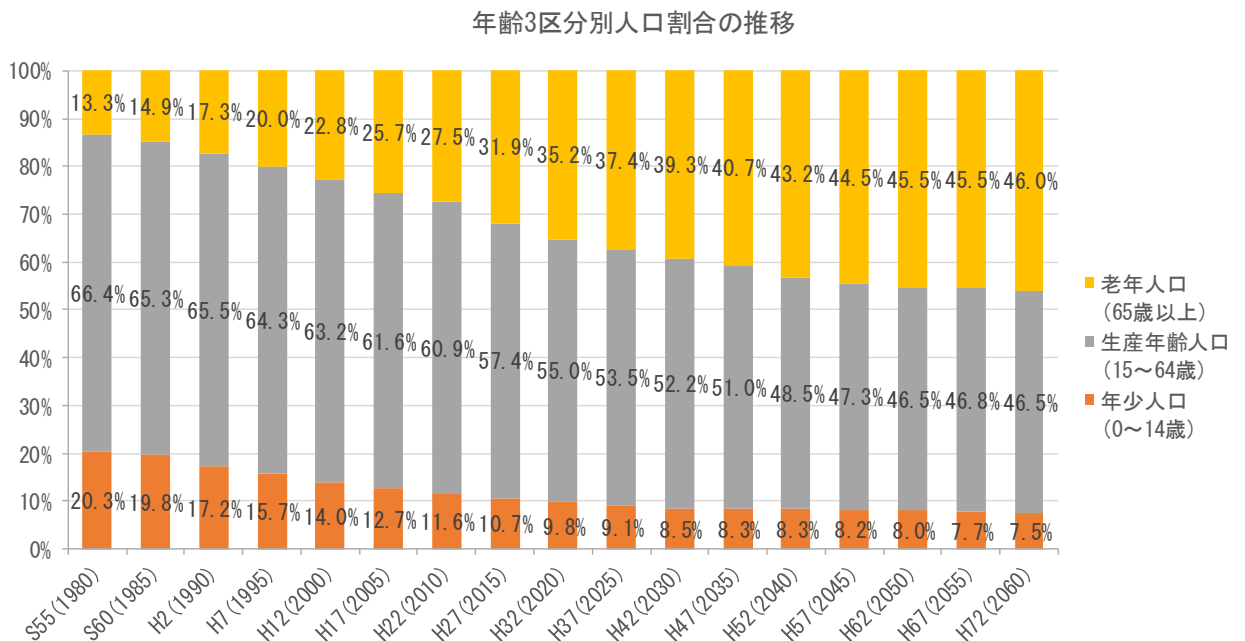
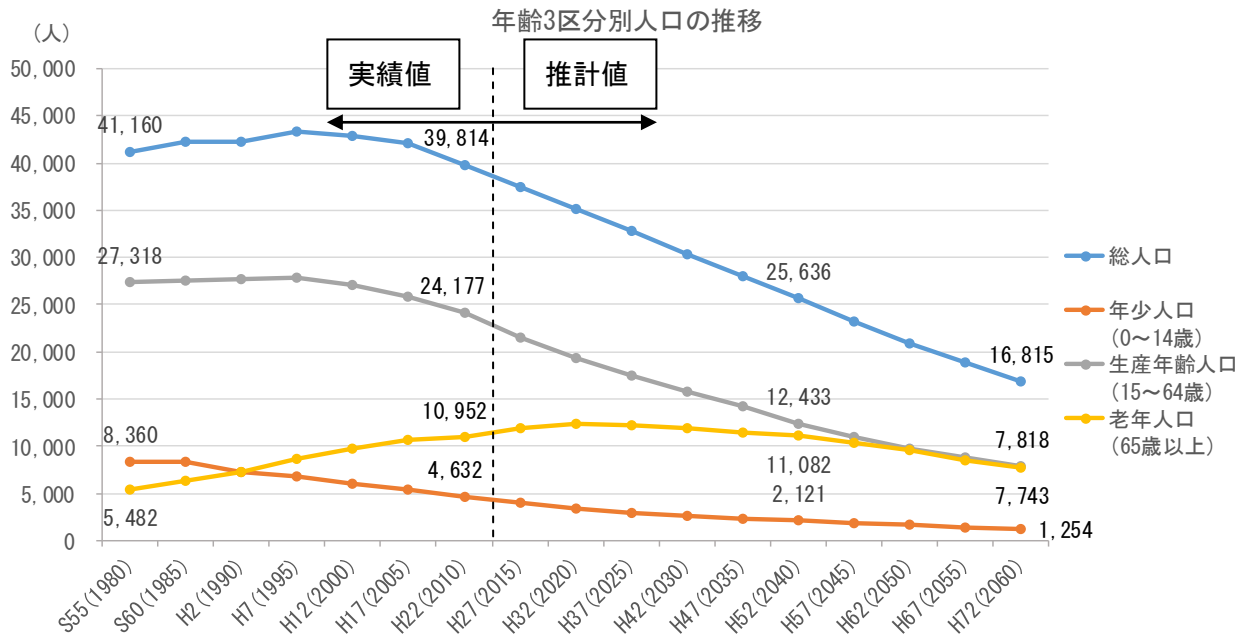


資料 : 1980~2010 年の実績値・・・総務省「国勢調査」  
2015~2040 年の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」  
2045~2060 年の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に  
基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

## 2 年齢3区分別人口の推移

総人口、年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)のいずれも近年は減少傾向であるが、老年人口(65歳以上)は増加傾向にある。しかし、平成32年(2020年)をピークに老年人口も減少に転じると予測されている。

年齢3区分別人口割合では、年少人口、生産年齢人口の割合が減少し、老年人口割合が増加するという一貫した傾向がみられ、各種産業における労働者・後継者不足等が懸念される。



資料：1980～2010年の実績値・・・総務省「国勢調査」(2010年の総数は、年齢不詳を含むため、総数は合わない)  
 2015～2040年の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」  
 2045～2060年の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

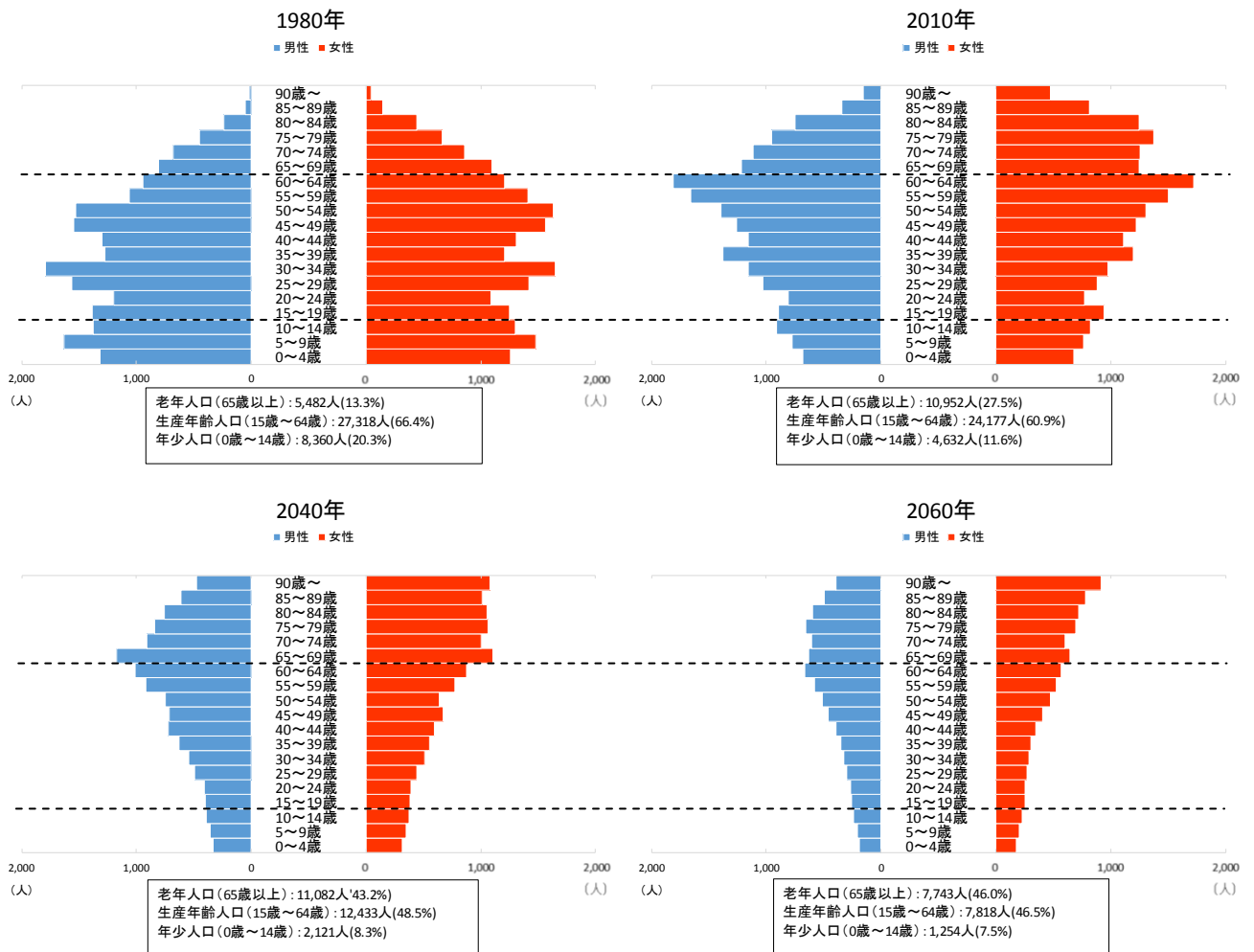
### 3 人口ピラミッド

年少人口(0歳～14歳)と生産年齢人口(15歳～64歳)に着目してみると、年少人口は昭和55年(1980年)の8,360人から平成22年(2010年)の4,632人へと大きく減少しており、平成72年(2060年)には1,254人になると予測されている。同様に、生産年齢人口は27,318人から24,177人に減少しており、7,818人になると予測されている。

一方、老年人口(65歳以上)については、5,482人から、10,952人へと大幅に増加するが、その後7,743人に減少すると予測されている。

特に、平成72年(2060年)には、年少人口がわずか7.5%になると予測されており、今後、年少人口の減少が深刻化すると見込まれている。

## 人口ピラミッド



資料：1980～2010年の実績値・・・総務省「国勢調査」

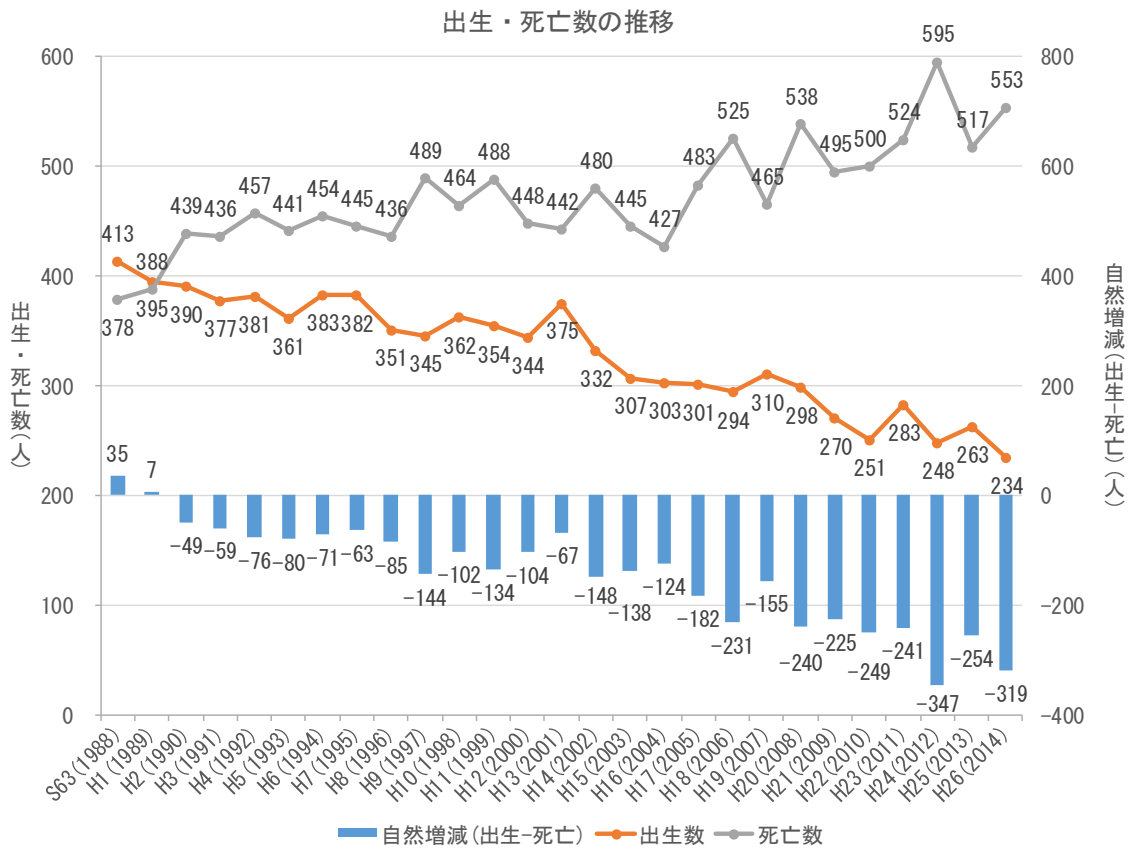
2015～2040年の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

2045～2060年の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

#### 4 出生・死亡数(自然増減)の推移

本市の出生・死亡数は、平成1年(1989年)まで、出生が死亡を上回る「自然増」であったが、その後、死亡が出生を上回る「自然減」の状況に変わった。その後、出生数が減少し、死亡数が増加するという傾向が続いているため、自然減が加速している。

今後高齢者が増加し、死亡数の増加が見込まれるため、人口減少に拍車がかかることが予測される。出生数を増やし、人口減少を抑制することが課題となる。



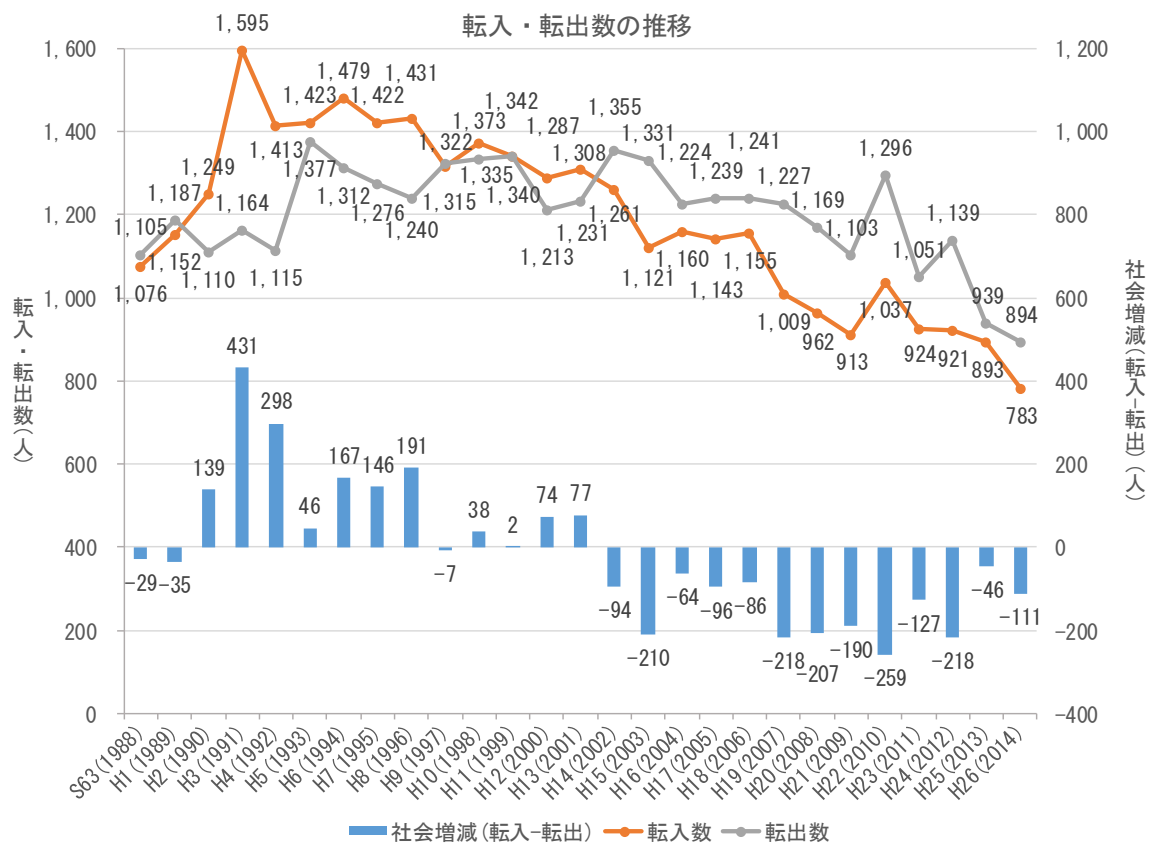
資料：千葉県毎月常住人口調査報告書(年報)

## 5 転入・転出数(社会増減)の推移

本市の転入数は、平成3年(1991年)から平成26年(2014年)にかけて1,595人から783人へと減少しており、転出数においても、平成5年(1993年)から平成26年(2014年)にかけて、1,413人から894人へと減少している。

一方、社会増減に着目すると、平成14年(2002年)以降「転出超過」となり、人口が流出していることがわかる。

人口減少が進行する中で、転入数を増やし、定住促進を進めることが課題となる。

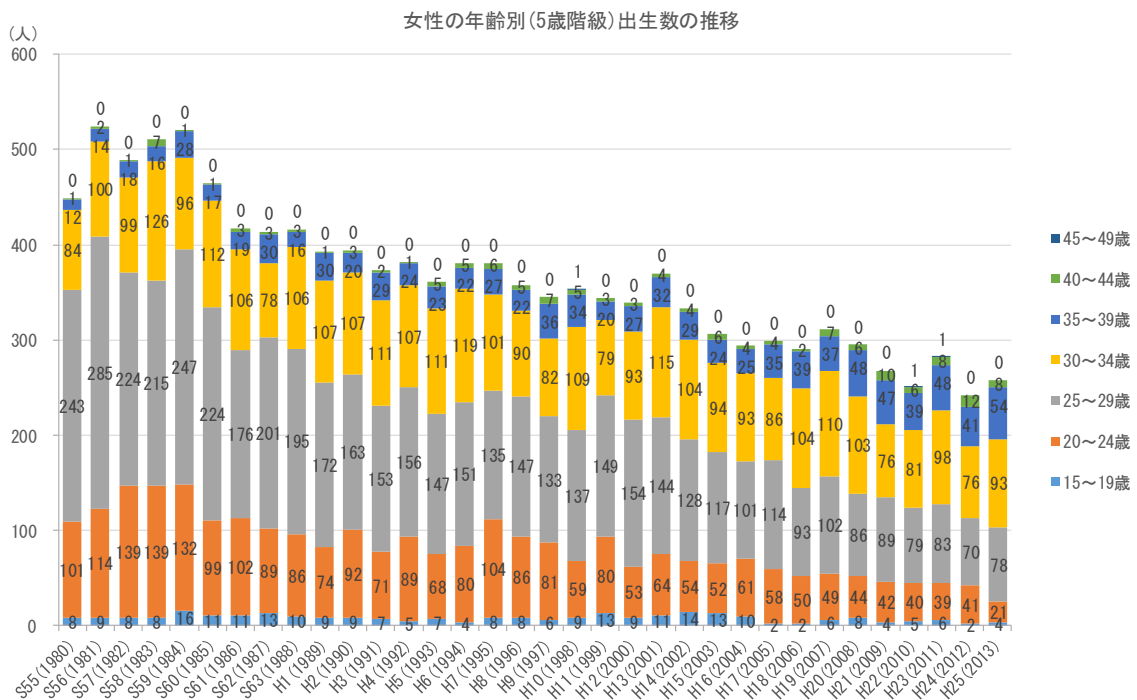


資料：千葉県毎月常住人口調査報告書(年報)

## 6 女性(15歳～49歳)の年齢別(5歳階級)出生数の推移

本市における昭和55年(1980年)から平成25年(2013年)にかけての女性の年齢別出生数をみると、20～24歳が101人から21人、25～29歳が243人から78人と、いずれも減少している一方で、30～34歳は84人から93人、35～39歳は12人から54人と増加している。

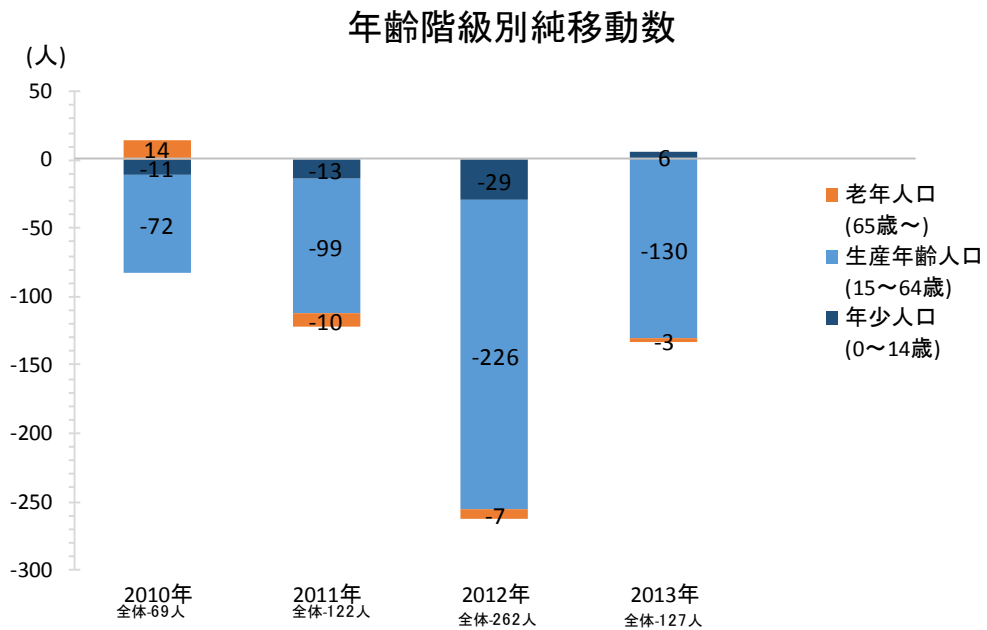
出生数が全体的に減少傾向であり、出産年齢が上昇する傾向がみられることから、結婚に対する支援はもとより、若い女性が出産・子育てしやすい環境づくりが必要であると考えられる。



資料：千葉県衛生統計年報

## 7 年齢階級別純移動数

近年の本市における年齢階級別純移動数については、平成24年(2012年)の生産年齢人口(15～64歳)が-226人と大きく転出超過となっている。また、一貫して転出人口が多く、人口の流出が進行していることがわかる。



資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

## 8 年齢階級別純移動数の時系列分析

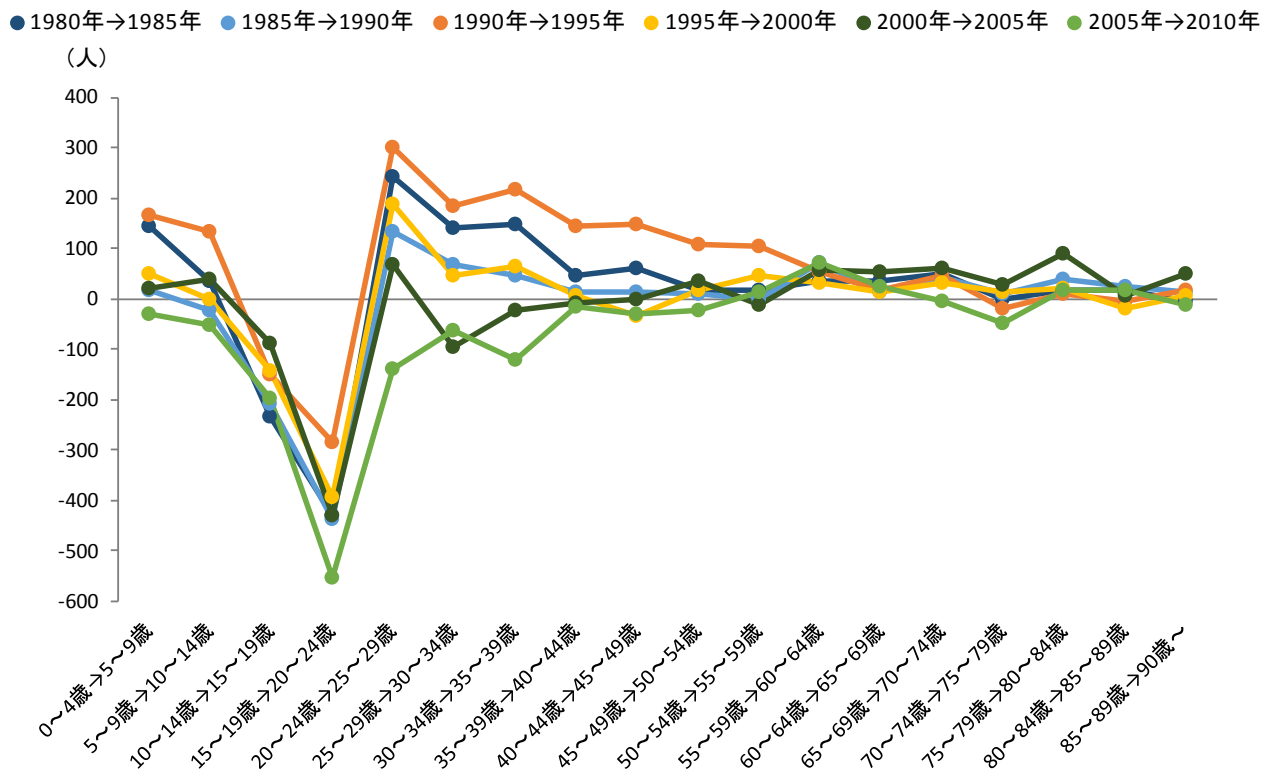
平成 17 年(2005 年)から平成 22 年(2010 年)にかけての純移動数を見ると、「15～19 歳から 20～24 歳になるとき」に-553 人と大幅な転出超過となっているが、これは本市に大学がないため、進学のために市外へ転出することによる影響と考えられる。

一方、「20～24 歳から 25～29 歳になるとき」には、転出超過の度合いが縮小しているが、これは大学卒業後の Uターン就職による影響と考えられる。

また、平成 17 年(2005 年)まではこの年代が転入超過となっていたが、平成 17 年(2005 年)から平成 22 年(2010 年)にかけては転出超過となっている。すなわち、「進学のために市外へ転出するが、卒業後に Uターンしない」若者が多くなっていると考えられる。

さらに、平成 17 年(2005 年)から平成 22 年(2010 年)にかけて「10～14 歳から 15～19 歳になるとき」においても、-196 人の転出超過となっており、総じて 10～29 歳の若者の市外流出が深刻化していることがわかる。

### 年齢階級別純移動数の時系列分析



資料：総務省「国勢調査」、「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

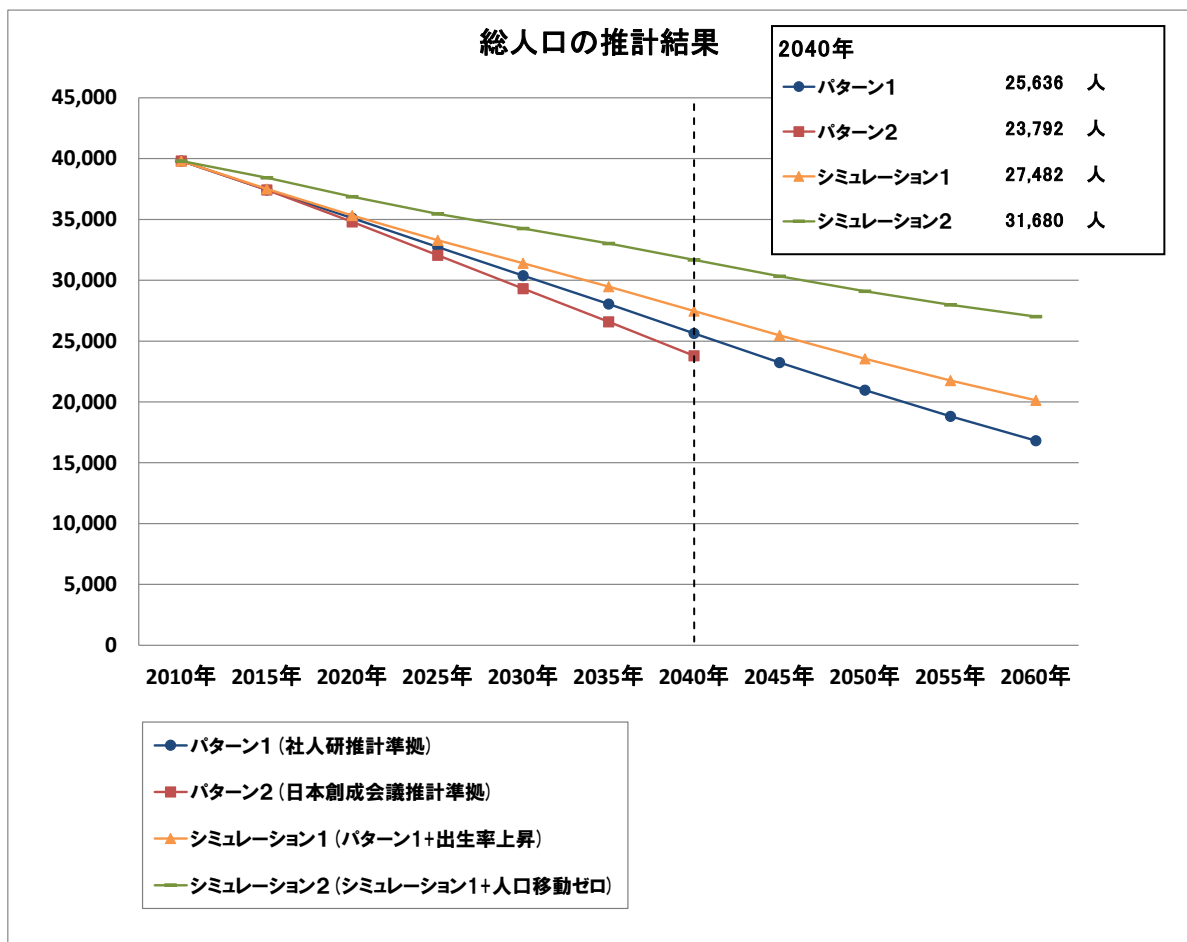


## 9 総人口推計

本市の総人口について、いくつかの仮定を設けた上での将来推計を行った。  
平成 52 年(2040 年)の人口推計を比較すると以下のとおりである。

項目	内容	2040 年の人口(人)
パターン 1 (社人研推計準拠)	純移動率が今後 2015~2020 年までに 1/2 に縮小。	25,636
パターン 2 (日本創成会議推計準拠)	総移動数が、2010~2015 年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移。	23,792
シミュレーション 1	パターン 1 をもとに、合計特殊出生率が 2.07(人口置換水準)まで上昇。	27,482
シミュレーション 2	パターン 1 をもとに、合計特殊出生率が 2.07(人口置換水準)まで上昇し、人口移動がゼロ。	31,680

人口置換水準：人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準。



資料：パターン1・・・総務省「国勢調査」(2010年の実績値)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2015~2040年の推計値)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成(2045~2060年の推計値)

パターン2・・・日本創成会議の推計に準拠

シミュレーション1及び2・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づき、まち・ひと・しごと創生本部作成